

子育てに学ぶ こどもの遊び（1）



「こどもは遊びの天才」という言葉があります。天才かどうかは別にして実際よく遊びます。でも遊びってなんなのでしょうか。そしてなぜ遊ぶ必要があるのでしょうか。

こどもは成長の段階によって遊び方が違います。

例えば赤ちゃんはハイハイするようになるととにかく動き回ります。寝ていた頃が懐かしいわ～、という時期の到来です。

そして立って歩くようになると歩き回ります。とにかく動くことが遊びなので、ますます目が離せなくなります。好奇心の塊でそれは素晴らしい遊びの基ですが、そのうちに世にも恐ろしい探索活動と呼ばれる時代に入ります。しっかり歩けるようになるとあらゆるものを触ったり舐めたりするだけでなく、物を投げたり動かしたりし始めます。自分の周りにどんなものがあるかすべて触って確かめたいのです。

それはさらに発展し、引き出しを開けて物を引っ張り出し触りまくるという行為に移行します。我が家も孫の到来で食器が一体何枚割れてしまったことか…。この頃のこども達は自然な好奇心を持っていて、ものを探求したり並べたり重ねてみたり分解してみたりします。椅子や台の上にも上ることも大好きです。その動きは脈絡も統一性もなくバラバラです。すぐに違うことを始めます。まだまだいろんなものを口に入れます。そんな時、あれは触ってはダメ、これは危ないからやめなさい、と禁止言葉の連発になるとこどもの意欲をつぶしてしまいます。この時期のこどもには、まだその言葉の意味が伝わりません。それより少々不便でも触ってほしくないものをこどもの手の届かない所に置いたり、十分に遊べる囲いをしたり、こどもを叱らずにそこから移動させたりする方が効果があります。二歳くらいまでのこどもたちの好奇心は本当に恐るべきもので、薬品やたばこなどおいしくもないものまでも飲み込みます。お水も大好きなので便器やお風呂は最大の注意が必要です。

この頃のお部屋はこども第一に考えるしかありません。私も食器を割ってほしくなかったら手の届くところに置かなければよかったのです。こどもが悪い訳ではありません。が、日常生活が大人にとっては大層不便になる時です。何かと気配りのいる時期で気が休まりませんが、一方でこの頃のこどもたちは言葉の数が増え、こどものしぐさや様子に心和まされることが多くなって別の幸せももらえる時でもあります。

こどもを育てることはそのあり様をしっかりと受け止めることだと思います。こどもは【小さな大人】ではありません。大人のように言葉が通じないこどもに説得や説明を試みても無駄で徒労に終わります。それよりは困ったことが起こらぬように、しかもこどもが生き生きと過ごすために大人が何をしたらいいか考えて行動に移すことだと思います。大人が変わるしかないのです。

こどもの遊び方は年齢と共に刻々と変化していきます。けれどその根本にあるこどものあり様

は『遊びは自分の成長のためにしている』という事なのです。2歳半くらいまでの基本的な遊び方は触る・匂いを嗅ぐ・舐める・動かすという体験を通して【世界を知り、自分の身体の使い方を学ぶ】事を積み重ねます。その行動は大人には『遊び』に見えないかもしれませんが、その体験を最大限に守ってあげたいと私は心から思います。

2歳半以降の遊び方はぐっと変わります。そのあり様が【遊びの天才】と大きくかかわってくるので次回はそれをお伝えできればと思います。

(シュタイナーようちえん メルヘンこども園 教師 田上恵子)